

市長記者会見記録

日時：2025年6月18日（水）14時00分～14時30分

場所：本庁舎2階 記者会見室1・2

議題：【話題提供】 川崎市立新小倉小学校の児童が、川崎市出身3ピースロックバンドSHISHAMO Gt. Vo 宮崎朝子さんと一緒に校歌を作ることになりました！【教育委員会事務局】

<内容>

【話題提供】

《川崎市立新小倉小学校の児童が、川崎市出身3ピースロックバンドSHISHAMO Gt. Vo 宮崎朝子さんと一緒に校歌を作ることになりました！》

【司会】 ただいまより定例市長記者会見を始めます。本日、話題提供といたしまして、「川崎市立新小倉小学校の児童が、川崎市出身3ピースロックバンドSHISHAMO Gt. Vo 宮崎朝子さんと一緒に校歌を作ることになりました！」となっております。

それでは、まず福田市長から本話題提供について御説明いたします。市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 令和7年度に開校を迎えました川崎市立新小倉小学校で、子供たちの発案から、川崎市出身である3ピースロックバンドSHISHAMO Gt. Vo 宮崎朝子さんと一緒に校歌を作ることになりましたので、話題提供をさせていただきます。

経緯といたしましては、今年の4月に6年生の児童から、校歌を作りたいという声上がり、校歌を作るにはどうするのがよいかと、作成に向けて調べ学習を進める中で、校歌の作成を地域にゆかりのある方に依頼した事例があることを知ったことや、校章を幸区の川崎総合科学高校のデザイン科の方に作ってもらったことなどから、同校の卒業生でもある宮崎さんに依頼をしたというものでございます。児童から宮崎さんへ依頼の手紙を送り、宮崎さんを招いた交流会の中で、児童と宮崎さんが一緒に校歌を作る約束をし、現在は6年生が総合的な学習の時間において、歌詞の原案となる言葉を集めていると聞いております。

12月の開校式典でお披露目が予定されておりますが、私自身も楽しみにしているところでございます。

私からは以上でございます。

【市政一般】

【司会】 それでは、ただいま御説明しました件と市政一般に関する質疑を併せてお受けいたします。それでは、幹事社様、よろしくお願いいたします。

《川崎市立新小倉小学校の児童が、川崎市出身3ピースロックバンドSHISHAMO Gt. Vo 宮崎朝子さんと一緒に校歌を作ることになりました！》

【東京（幹事社）】 幹事社、東京新聞です。よろしくお願いいたします。

【市長】 お願いします。

【東京（幹事社）】 新小倉小学校の校歌の件につきまして、市長御自身も母校の校歌に対

していろんな思いもお持ちであったりするかなと思うんですけれども、校歌ってこういうものだよなというのを市長のお言葉で伺えたらと、あと、新小倉小の校歌にける期待を教えてください。

【市長】 私自身の小学校、中学校の校歌って、今でもそらんじて歌えるぐらい、人生にとって忘れ難いものになると思っていますし、今回新しくできた新小倉小学校の生徒が、自分たちの校歌を自分たちで地元出身のアーティストと作り上げるという機会に恵まれたということは、宮崎さんにもそうですし、生徒たちの、児童たちの発想にすごく感激しております。

【東京（幹事社）】 すみません、事務方になるかと思うんですけれども、校歌作成に係る費用みたいなものがあれば教えてください。

【教育委員会】 教育委員会からになります。

今回、宮崎さんには、ほぼ御厚意でこちらをお引受けいただいたと伺っております。

以上でございます。

【東京（幹事社）】 無償でという理解でよろしいでしょうか。

【教育委員会】 若干の謝礼はこちらからお支払いさせていただいていますけれども、ほとんど宮崎様の御厚意でお引受けいただいております。

《川崎市長選挙について》

【東京（幹事社）】 ありがとうございます。市政一般までよろしいでしょうか。

それでは、先週、市長選への出馬を表明されましたけれども、その後、周囲から何らかの反応などありましたでしょうか。

【市長】 そうですね、後援会をはじめとして、やっとそういうこと、公になったのねという、ちょっとすっきりしたという声もありがたくいただいておりますので、そういう意味では自分自身も非常にすっきりしておりますし、なるべく早いタイミングでお伝えしたかったものですから、それはよかったなと思っています。

【東京（幹事社）】 本当は早く言いたかったという理解でよろしい……。

【市長】 というか、前回の議会で予算が通ったということもありますので、それを受けて、予算が通った後でもよかったのではないかとことはあるかもしれませんが、自分の中での気持ちの整理というのもありましたので。

《国の物価高騰対策について》

【東京（幹事社）】 話が変わりまして、自民党が参院選の公約に2万円の給付というものを掲げていて、いろんな議論があるかなと思うんですけれども、市長としての受け止めを教えてください。

【市長】 各自治体の首長もコメントしていますけれども、また給付というような、そういう感覚はあります。そして、今年は様々私たち事業を抱えていて、もう自治体の職員も大分疲弊しているというのは、全国同じようなことが起こっているのに、またこの作業かということにやや、またこのやり方かというのは正直思います。物価高騰対策というのは大切なこ

とだと思いますが、同じ方式で給付事業かというのは、ちょっと物申したい気持ちになるのは、ほかの自治体の首長とも共有していると思います。

【東京（幹事社）】 やはり現場職員への負担が大きい事業であるという受け止めでよろしいですか。

【市長】 そうですね。それと、当然それに関わる経費というのにもかかってくるわけで、そのことも給付費以外に発生するということを考えると、実に効率的な手法なのかということとは思っております。

【東京（幹事社）】 ありがとうございます。

それでは、各社、お願いいたします。

《川崎市長選挙について》

【朝日】 朝日新聞でございます。

市長選に向けて、SNSの活用についてのお考えをお聞かせください。ふだんの後援会活動ではあまり、持っていらっしゃるけど使っていないような気がするので、よろしく願います。

【市長】 前も旧ツイッター、今のXの活用というのをやり始めたんだけど、すぐやめちゃったということがありました。今後もあまりXは使わないかなという感じはします。ただ、ホームページでありますとか、既存の持っているものをどこまで使うかというのは、まだしっかり考えてはおりませんけれども、ただ、実際私の選挙戦になりましたら、演説ですとかを現地で見られる方ばかりではないし、例えばマニフェストみたいなものを手にされる機会がない方もいらっしゃるということを考えると、何らかの形で、うまい形で活用していくということは、自分の主張を伝えていくという観点からは大事なことだと思っていますので、効果的で、かつ、何か最近、フェイクの話だとか、いろんなことがありますから、そういったところに注意しながら活用していきたいと思っています。

【朝日】 Xをあまり活用されない理由は、以前にもお話しになったと思いますけれども、改めて教えていただけないでしょうか。

【市長】 投稿していることに関係のないようなことが次々と書き込まれてしまって、本来の目的を失っているかのようなものが多かったりですとか、あるいは、果たしてこれが効果的な手法なのかということを疑問に思っているから少し控えております。災害時だとか、そういったときには積極的に使わなければならないなと思っていますが、日常的な活動に使うのは、ちょっと私、今控えている状態です。

【朝日】 ありがとうございます。

【NHK】 NHKです。よろしくお願いいたします。

市長選について教えてください。先週、出馬の意向を表明されて、これまでも既に実績もたくさんあるかと思いますが、振り返って、これまでにこんなことに力を入れてきたところと、並びに、これからを見据えて、こんなビジョンで川崎市を、方向性を示していきたいというところがあったら教えてください。

【市長】 今期も都市基盤整備でありますとか、あるいは50年に一度とも言える拠点整備、それから子育てだとか、あるいは教育環境の改善に尽くしてきましたし、今期で言うと、脱炭素の取組を力強く推進してきたという思いはあります。

一方、これからなんですけれども、これまで私も取り組んでまいりました特別市の課題ですとか、あるいはJFE跡地の大規模土地利用転換という、川崎のこれからの100年をつくっていく産業というものが極めて重要な局面を今迎えておりますので、そういったところに、将来の川崎の発展のために資するような、そんな取組をこのタイミングでしっかり継続してやっていきたいという思いで、次も挑戦するという思いを固めたところであります。

【NHK】 追加で恐縮なんですけれども、今お話しいただいたことで大枠をお示しいただいて、これは政策の会見ではないので、あくまで市長会見でというところなんですけれども、大きくここに力を入れていきたいというところで、具体的なものがあつたら、かみ砕いて、言える範囲で大丈夫なんですけれども、教えていただけますでしょうか。

【市長】 大きな枠組みということ言うと、先ほど申し上げたような、私たちの川崎市だけではなくて、自治体の制度そのものを変えていくような特別市の大きな枠組みの話ですとか、それから、これまで川崎がいわゆるどういう経済で発展してきたかということからの大きな転換になりますので、そういったところを、先ほど言ったとおり、これからの100年をつくっていくような、そんな産業転換を企業の皆さんと一緒につくっていききたいなと思っております。

【NHK】 ありがとうございます。

《特別市について》

【時事】 時事通信社です。

先ほど出ました特別市のほうなんですけれども、指定都市のほうで、夏ぐらいに何か取りまとめるという話もあるかと思っておりますけれども、それ、どのような状況でしょうかね。

【市長】 取りまとめを、今、現在進行形でやっておりまして、私ども川崎市が中心になってやっているところを他都市に照会をかけて、どういうふうにまとめて、こういう文言でどうでしょうかというものを、今、現在進行形でやっているところです。

【時事】 先日、経済効果の発表とかもあつたんですけれども、今後、近く、川崎市のほうで、特別市に関してはこういう考え方があるというような……。

【市長】 川崎市の、ごめんなさい。

【時事】 川崎市のほうで、特別市のこういう考え方があるというのは、何か発表とかあるんでしょうか。

【市長】 これは、あくまでも政令指定都市の作業が中心になってきますけれども、その中で、先にお示しした経済波及効果というのは、全市でというより、まずは川崎市で物を示して、ほかのところでのモデルになるのではないかなという取組をやってきましたけれども、まずは政令指定都市全体での取りまとめ作業に全力を尽くしたいと思っています。

【時事】 分かりました。ありがとうございます。

《川崎港の新たなコンテナ定期航路の開設について》

【産経】 産経新聞です。よろしくお願いします。

先ほどリリースされたんですけれども、川崎港の新たなコンテナの定期航路が、7年ぶりに釜山との定期航路が開設されるということで、新しい航路に対する期待とか意義についてお願いします。

【市長】 ありがとうございます。7年ぶりの新規航路ということで、コロナ禍以降、やはりコンテナの取扱量も非常に厳しい状況にあったということなので、その中での新たなアジア航路ということですから、そして、京浜港の中では唯一川崎港に着くということなので、その意味、意義というのはとても大きいと思っています。これからしっかりと集貨に向けて、官民挙げて取り組んでいきたいと思っています。

【産経】 分かりました。どうもありがとうございます。

《南武線のワンマン化の影響について》

【t v k】 テレビ神奈川です。お願いします。

前回の会見の中で、J Rの南武線、ワンマン運転について、遅延との因果関係のことをJ R側に説明を求めていると思いますが、御回答はありましたか。

【市長】 まだ私のところには来ておりませんが、確認してまた御報告したいと思います。

《少子化対策について》

【t v k】 分かりました。

あと、話題変わるんですが、小児医療費について、議会のほうにも民間団体から署名が提出されたと思います。県内でも医療費の無償化について、ほかの自治体では18歳までと年齢が高いですが、川崎ではいまだに中学3年生まで、また一部保証させている点などありますが、その点について市長はどうお考えでしょうか。

【市長】 これまでも申し上げているところですが、小児医療費ですとか子供に関わるころというのは、自治体間競争ではなくて、国の全国一律なやり方でないといろしくないといことは、これまでも申し上げてきました。その中でも、まずは中学校まで上げてきましたというところであります。私が就任したときは小学校2年生まででしたから、そういった意味では、この10年間ぐらいの中で急速に無償化に取り組んできたところですが、どこまでやるのというのは、正直、政策効果というものをしっかり見極めていかなきゃいけないんじゃないかなと思っています。

自治体関係競争でやって、こうやって大枠で見ますと、実際それ少子化対策になっているのということも大いにあると思います。あれだけ東京都がお金を出していて、合計特殊出生率0.96ですよ。そこにどれだけお金をつぎ込んでいくといったところに、本当に政策効果があるのかということを考えなくちゃいけないんじゃないかなと思います。

よくこの自治体の周りのところはどうかというのは、今生まれているお子さんをただ吸収しているだけで、大きなスコープで見ると、実際減っているということから考えると、何が本当に少子化対策として優れているのか、そして子育て施策として正しいのかという

ことのまともな政策評価は、しっかりと国全体でも、あるいは広域の自治体の取組としても、しっかり考えなくちゃいけないと思います。

無料化とか無償化というのは、単純に税金化ですから。そういった意味では、必ず納税者の負担に跳ね返ってくるということを正しく伝えていくのは、本当に政治家の役割ではないかなと思っています。さっきの国の給付の話もそうですが、これ、ばらまいて誰が負担するのか。納税者ですよ。何となく得したような気分になっているというのは、本質的にみんな考えないといけないんじゃないかと、私はすごく危機感を持っています。

長くなりました。すみません。

【t v k】 ありがとうございます。政策を検証する必要があるということですが、無償化について。今の中3が福田市長御自身は妥当ではないかと思っている？

【市長】 現時点ではそう思っています。実際、高校生、年齢が上がるごとに医療費というのは実際にかからなくなっていくので、そういう意味では、小さいほど医療機関を受診するケースは多いので、そういった意味では、だんだん負担は、行政側の無償化した場合の負担というのはどんどん下がっていきます。しかし、どこまでやるのかということの政策評価はあってしかるべき。隣町がやっているからどうかということは、本筋とは違うのではないかと思います。

【t v k】 よく分かりました。ありがとうございます。

【司会】 神奈川新聞さん。

【神奈川】 神奈川新聞です。

今言った少子化対策は、一自治体でやることというのも非常に限られていると思うんですけども、川崎市として何かやっていきたいみたいなものというのは、少子化対策に向けては、何か考えられていることはありますか。

【市長】 様々やっていますけど、例えばこのエリアで産み育てても、子供を産み育てたときに安心だなという体制ということも大事ですし、それを支えているコミュニティー、こういったものが、この空気感というのがとても大事だと思っています。そういった意味では、保子セン、保育・子育て総合支援センターをはじめ、そういった機関をつくっていくということと、今コミュニティー政策という形で様々やっていますが、相談できる、そして医療機関もある、友達もしやすい環境だ、そして自分一人で子育てをするのではなくて、地域みんなが子育てを支えているという取組が起こっていて、それが空気感となっていくと。そういうものが、まさにここで子育てしても大丈夫なんだなというものになるんじゃないかなと。

正直、日本の空気感として、今、産みたいですよというふうに、もろ手をみんな挙げてといった空気感がないから、こういうものというのが、それは一つの政策をやれば全てが解決するようなものでは僕はないと思います。あらゆるものの政策の重なり合いの中でそういうものが確立できると思っているので、そこの、繰り返しになりますが、政策効果というのをしっかり見極めた上で、何を国がやり、そして何を自治体としてやっていく、工夫ができる

のかということ、そういう体制に改めなくちゃいけないんじゃないかなと思っています。

今の都市間競争の中での給付みたいな話というのは、もはや破綻していますでしょうと。それをやって、奪い合っているけど、もう既に生まれた子の話ですよということからすると、もういいかげんこういう話にピリオドを打って、国で一律的に考えて、これ以上は自治体の工夫でやってくださいと、給付という形ではなくて。そういうやり方にしていくなきゃだと思っ

【神奈川】 という熱い思いはあると思うんですけども、その中で、一方で、川崎市のほうからも、子育て世代というか、一定年齢に達すると出ていってしまうという現状があると思うんですけども、そこら辺の課題感というのは。

【市長】 課題感、最も大きい課題感、住宅です。子育て支援のところではなく住宅問題です。ですから、ここの課題というのは非常に重たいですけども、ここは挑戦していかなきゃいけないところだと思っています。

川崎市内、御案内のとおり非常に家賃も高いですということを考えると、やはり子どもさん1人じゃなくて2人となったときに、より広い、そして安価なところを求めて南へ西へと流れていくというのは、東京から川崎へ、川崎から南へ西へと流れていく構図は変わっていないと思います。ですから、むしろ住宅政策でどう考えていくかというのは、大きな課題だと思っています。

《個人情報保護委員会からの指導等について》

【神奈川】 この話、掘り下げていきたいんですけど、今日はこのくらいにさせていただいて、昨日、市のほうの発表で、政府の個人情報保護委員会から行政指導を受けたという発表がありましたけれども、市長として、3年連続で行政指導というか、書面で指導を受けているという現状を今どのように受け止めていて、さらに昨日ちょっと踏み込んだ話もありましたけれども、今までの対策だとなかなかうまくいかないのかなというところで、何かが変わらなきゃいけないものが必要なんじゃないかなと思ったんですけども、いかがでしょうか。

【市長】 そうですね、本当にこのこと自体は非常に深刻に受け止めています。特に、昨日発表させていただいた2件については、上司に報告が上がっていないということでもありますから、嫌なニュースほど早めに上に上げていくという、そのこと自体が、言っているつもりでありますけれども、しかしそれが徹底できていないということは、素直に反省しなくちゃいけないということですし、より任命権者ごとではなくて、横串を刺した取組というものが大事になってくるのかなと思っ

【神奈川】 やっぱ心理的安全が確保されていないみたいなのところもあるのかなと思っ

【市長】 上司に報告しないということ自体が驚きというのもあるんですけども、心理的というよりも基本の話でありますので、そこはやっぱり現場を一番よく知っているのは係長級になりますから、係長の意識というのもの、しっかり研修も含めてやっていかなきゃ

いけないなと思っています。先月も新任係長研修、私自身もやらせていただきましたけれども、あらゆる場を通じてやっていかないといけないなと思っています。

《柿生学園について》

【神奈川】 最後に、柿生学園の指定管理者の話ですけれども、いろんな討論の中で指定管理者を交代するという方向に定まりましたけれども、市長として、改めてその指定管理者が替わること、特にああいう重度の障害者の方が過ごしているところでの、ちょっと難しいところ、替わるのって、話を聞いている限りだと、非常に難しい、デリケートな話なのかなとは思いますが、市長はどういうふうにこの問題というか、この件に関しては受け止めていますか。

【市長】 やっぱり利用者の皆さん、あるいは家族の皆さんが安心されるということがすごく大事だと思います。そのために、なるべく早く移行の準備を進めていく、そして安心感を持ってもらうということがとても大事だろうと思っています。それぞれ審査を受けて、今回受託するところのほうで点数がいいということですから、そういう意味では、早くその体制に皆さんの理解を得ながら進めていくということが大事だと思いますし、持続性、継続性というのはとても大事だと思いますが、それでも、よりよいものを目指してということで、一応年限を切って競争性を高めてということをやっているんで、そうでなければ、むしろサービスというか、ケアというのが本当に悪くなっていくことだけは避けなければならないということでもありますから、そのためにしっかりと行政としてもフォローしていきたいと思っています。

【神奈川】 ありがとうございました。

《川崎市差別のない人権尊重のまちづくり条例について》

【読売】 読売新聞です。

間もなくヘイトスピーチ防止条例から、全面施行から5年となると思うんですけれども、この5年を振り返っての意義と、あと、特にこういう変化を生み出したことができるんじゃないかという市長の所感があればというのと、あと、現状での課題を教えていただければと思います。

【市長】 条例ができたことによって、条例に抵触するような言動は見られなく、聞かれなくなってきたというのは、一定の条例の効果があるんだと思っています。一方で、この場でも何度も申し上げているとおり、インターネット上の誹謗中傷というのは、まだ続いているどころか増加しているという状況に大変大きな懸念を持っておりまして、そういった意味で、先々週先週にも法務大臣のところにも行きましたし、先月は総務省のほうにもお邪魔させていただきました。引き続き、こういったプロバイダー系の話というのは、一自治体では限界を超えているというものもありますので、しっかりと国のほうでしっかりと調査をし、そして基準をつくるなり、そしてどうそういった状況、インターネット上でのヘイトスピーチというものをなくしていくかということに、国にもしっかりと取り組んでいただきたいと思います。

【読売】 ありがとうございます。

【司会】 ほか、他社さん、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして市長記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

【市長】 ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、明らかな言い直しや言い間違い、質問項目など整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当